

細胞培養に必要な培地の中国ビジネスを拡大  
培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」を中国に新設  
現地ニーズに合わせて培地をカスタマイズし、顧客の創薬・医薬品製造を強力にサポート

2021年12月1日

富士フイルム株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長・CEO:後藤 穎一)は、細胞培養に必要な培地の中国ビジネスを拡大するため、蘇州高新区に培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」(以下「ICC」)を新設します。「ICC」は、急伸する中国市場の顧客ニーズを素早く捉え、培地をカスタマイズする拠点です。

当社は、2022年3月に「ICC」を稼働させ、中国における顧客サポート力をさらに強化していきます。

培地は、細胞の生育・増殖のための栄養分を含む液状または粉末状の物質で、バイオ医薬品などの研究開発・製造における細胞培養に必要不可欠なものです。現在、抗体医薬品やワクチンといったバイオ医薬品の需要増や、細胞を用いた治療法の拡大に伴い、培地のグローバル市場は年率10%以上<sup>※1</sup>で伸長。なかでも、中国市場では、承認される医薬品増加を背景に、年率約20%<sup>※1</sup>の高い成長性が見込まれています。また、中国では新薬開発も活発化しており、早期の段階から製造プロセスに最適化した培地を用いて新薬開発を進めたいというニーズが高まっています。

当社は、グループ会社のFUJIFILM Irvine Scientific, Inc.や富士フイルム和光純薬を通じて、培地ビジネスをグローバルに展開しています。現在、高い研究開発力や優れた品質管理力、日本・米国に有するcGMP準拠生産拠点を活用し、高品質・高機能な培地を開発・提供。さらに、日本・米国に続き、欧州にも工場を建設するなど、高まる培地需要に対応するための生産能力増強を積極的に進めています。

今回、当社は、バイオ医薬品などの研究開発・製造を行う製薬企業が集積する中国・蘇州高新区に、培地のカスタマイズサービス拠点「ICC」を新設します。「ICC」は、細胞の自動培養装置や、培養した細胞の品質・量などを分析する自動解析機器を設置し、細胞培養評価を高精度に行うことができます。さらに、より効率的な抗体産生など細胞の機能発現の最大化に向けて培地の処方を最適化するサービスを提供していきます。

今後、当社は、日本・米国に続き、中国でも培地のカスタマイズサービスを展開するとともに、中国における営業・技術サポート体制を一層強化することで、顧客満足度のさらなる向上を図ります。

当社は、グループの技術・ノウハウを結集して高品質・高機能培地を開発し、幅広く提供することで、グローバル展開を加速させていきます。また、培地のみならず、iPS細胞由来の創薬支援用細胞や研究用試薬も含めた幅広いラインアップと総合提案力で、ライフサイエンス事業を拡大するとともに、医薬品産業のさらなる発展や再生医療の産業化に貢献していきます。

※1 当社調べ。

＜新拠点の概要＞

1. 拠点名	Innovation & Collaboration Center
2. 設立場所	中国・蘇州高新区
3. 業務内容	細胞培養に必要な培地のカスタマイズサービス
4. 稼働時期	2022年3月(予定)

本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

【報道関係】富士フイルムホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

TEL 03-6271-2000

【その他】富士フイルム株式会社 ライフサイエンス事業部

TEL 03-6271-3030